



南極のトイレとお風呂のいまむかし

第1次隊～ (1956年～)

「小」のほうは、基地のあちこちに置いてある200ℓの空ドラム缶の上に20ℓポリタンクを改造し便器として設置し、「シヨンドラ（小便ドラム）」・「シヨンタン（小便タンク）」と呼び、満タンになると当番がまとめて海氷に捨てに行きました。

「大」のほうは、風よけのために野外に造った三角トイレ（小さなテント）か、天気の良い時はタイドクラック（潮の満ち引きによってできる海氷の割れ目）にしていました。

一方お風呂は、水の使用量が1日1人10ℓという制限があったので、月に1～2回入れるだけでした。

※今でも基地のトイレから離れた場所ではシヨンタン（シヨンポリとも呼ばれる）が使われています。



【シヨンタン使用例】

写真提供：
第9次隊 大久保 嘉明 氏

第7次隊～ (1965年～)

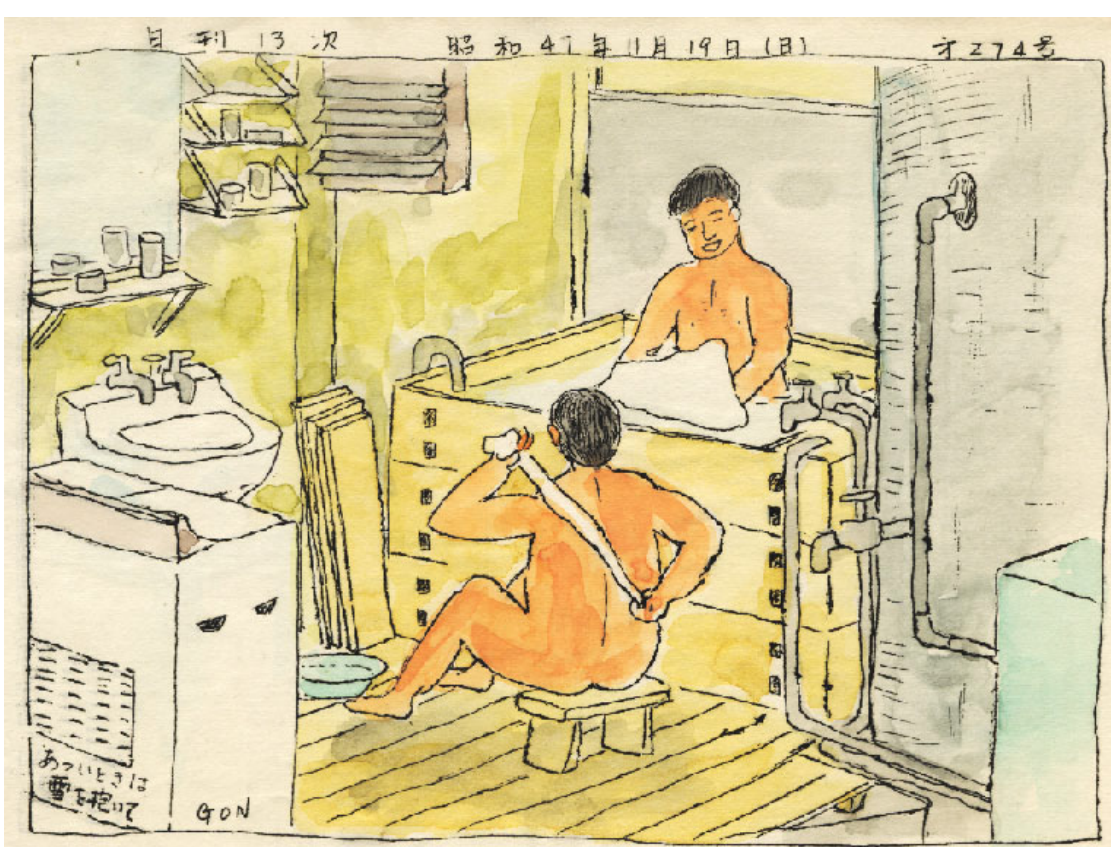
昭和基地の建物内に「新幹線式循環トイレ」（便器洗浄に使う洗浄水を再利用するトイレ）が設置され、初めて屋内の暖かい場所で用を足せるようになりました。

夏隊用のトイレは、古いそりを改造してタイドクラックの割れ目に置いた「海氷トイレ」でした。タイドクラックから吹き上げる風にトイレトーパーが舞い上がり、誰が名づけたのか「吹き上げ御殿」と呼ばれていました。



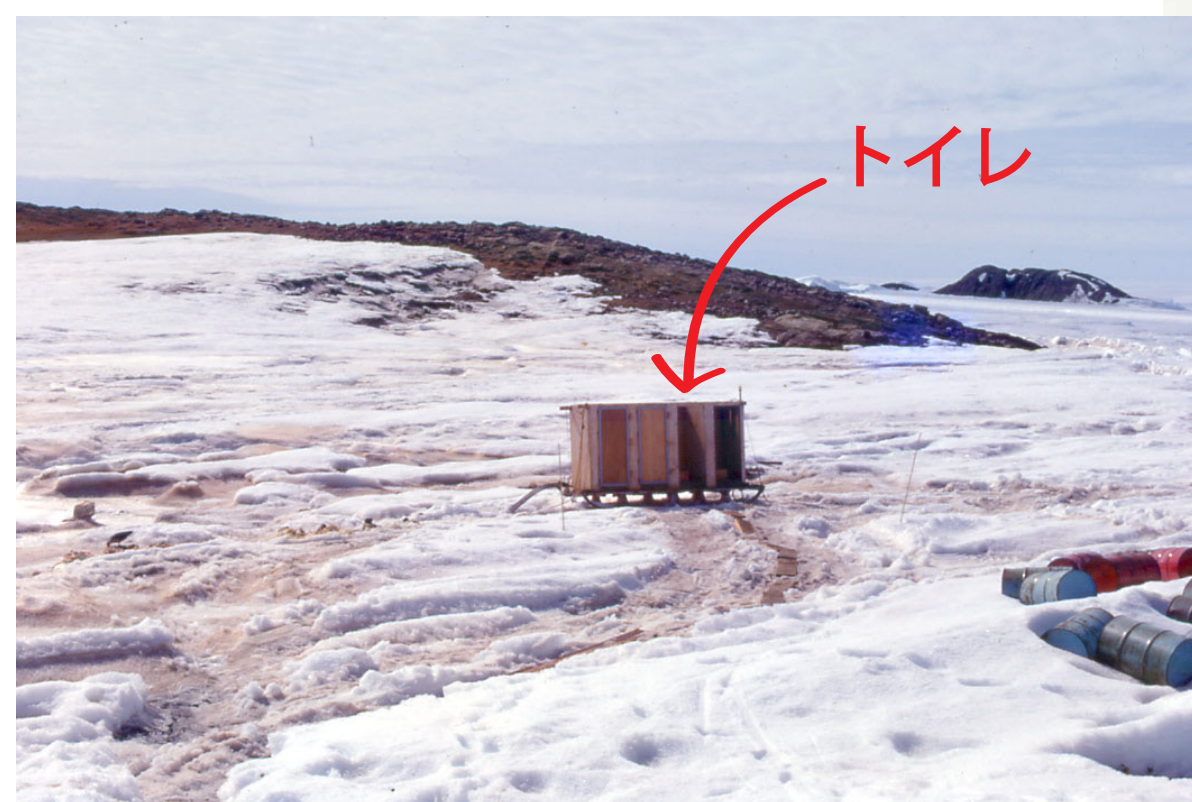
【シヨンタンの絵】

提供：第9次・第13次隊 福谷 博 氏
昭和基地発行『日刊十三次』
(13次隊発行の新聞)より



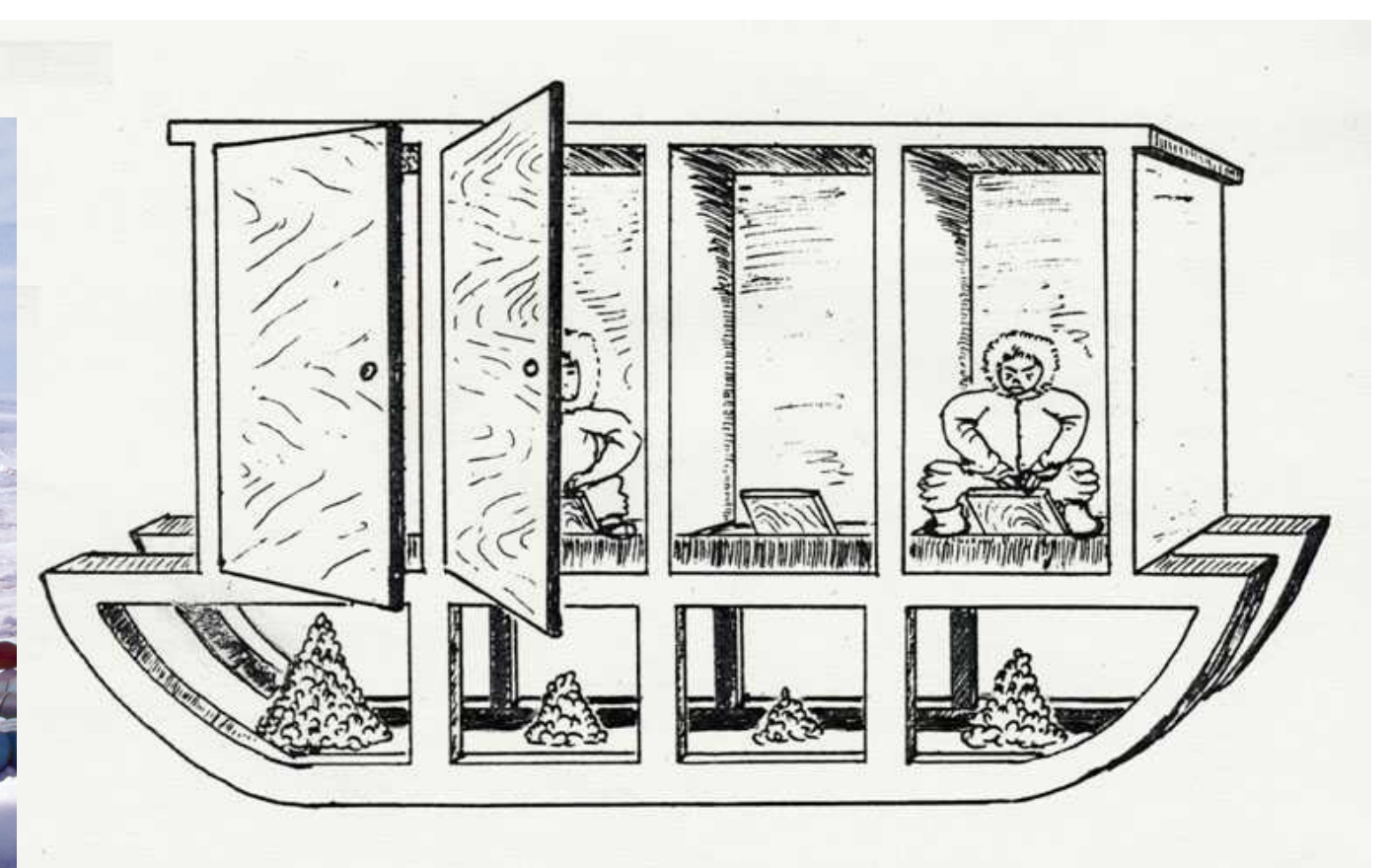
【13次の風呂の様子】

提供：第9次・第13次隊 福谷 博 氏
『日刊十三次』より



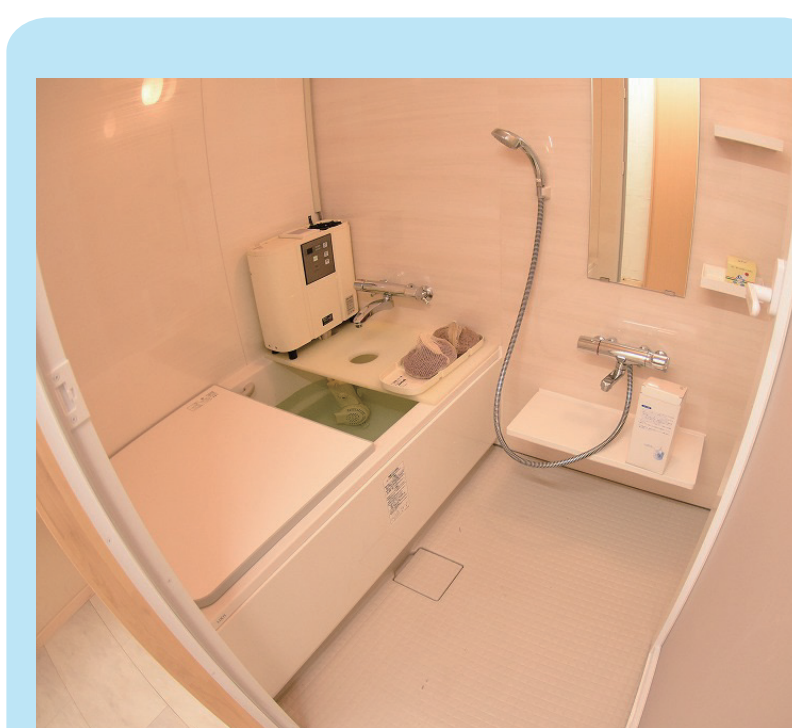
【海氷トイレ（吹き上げ御殿）】

写真・イラスト提供：第9次隊 大久保 嘉明 氏



第25次隊～ (1983年～)

発電棟の中に、大きなお風呂とウォシュレット式トイレが設置され、昭和基地の居住性は大きく改善されました。ウォシュレットは当時の日本でも珍しく、昭和基地のトイレには大行列ができたそうです！第39次の女性初越冬時には、女性風呂も完成しました。



広めのユニットバス



シャワートイレ



2つになった洗面台

【第58次で移設された女性用お風呂・トイレ・洗面台】